

モンゴル国・ウランバートル市における生活空間計画に関する研究（その 11）

日大生産工（研究員） ○杉本 弘文
日大生産工 川岸 梅和

1. はじめに

本研究は、モンゴル国・ウランバートル市における生活空間計画に関する一連の研究の中に位置づけられるものである。モンゴルの集合住宅地区及び遊牧民を対象として行なってきた居住者の意識・活動特性、生活・居住空間に関する実態調査やその比較・分析を通して、これまでに、1）遊牧民は、協同・協働活動を通じて良好な近隣コミュニティを育み、環境負荷の少ない暮らしを実践していると共に、生活・居住環境に対する満足度も総体的に高いこと、2）集合住宅居住者は、遊牧民に比べて近隣世帯間のコミュニティが希薄な傾向があり、居住する集合住宅地区以外での個人や家族単位での生活・余暇活動の時間量が多いこと、3）生活・居住環境に対する意識において、自然環境・子育て環境に関する評価は集合住宅居住者に比べて遊牧民の方が高いと共に、遊牧民においては種々の資源や材料をリユースする活動が活性化しており、自然環境や周辺環境を良好に保つ意識が総体的に高いこと、等が明らかになっている。

こうした研究の成果から、身近な生活空間内における居住者の参加による協同・協働活動の活性化とコミュニティ意識の高まりは、安心・安全な生活環境の創出と維持・保全に大きく寄与すると考えられる。

本稿では、モンゴル・ウランバートル都市部における集合住宅地区の生活・居住環境に着目し、集合住宅居住者に対するアンケート・ヒアリング調査から意識特性・活動特性について把握した上で、都市部集合住宅居住者の近所付き合いの状況が、生活意識や生活・コミュニティ活動にどのような影響を及ぼしているかに視座を置き、生活・コミュニティ意識と生活活動特性等の相互の関係性について検証することで、都市部の集合住宅での定住における生活・居住環境づくりに関する基礎的知見を得ることを目的としている。

2. ウランバートル市街地の調査対象集合住宅の概要

本稿における調査対象集合住宅地区は前稿と同様であり、筆者らがこれまで一連の研究^{既発表論文 1) ～7), 9)}のなかで対象としている BAYANGOL 区 Tumur Zam（第 2 号）地区である。1979 年に竣工された平行型配置形態、住

戸形式は階段室型でレンガ造 5 階建て、総住戸数 240 戸の集合住宅地区であり、管理組合が役員 16 名で組織され、総会は年 1 回以上行われている。尚、詳細については図 1 に示す通りである。

3. 研究の方法

アンケート調査は既報と同様に、ウランバートル市街地内（都市部）に暮らす集合住宅居住者を対象として 2007 年 9 月に行った。アンケート調査の内容は、両調査に共通して、居住者の基本属性、1 日（平日・休日）に行う生活活動・行為、近隣世帯との協同・協働活動の状況、生活・コミュニティ意識、自然環境・周辺環境への意識、生活・居住環境評価等であり、アンケート調査の概要・内容は表 1 及び表 2 の通りである。

表 1 アンケート調査の概要

集合住宅居住者に対するアンケート調査	
配布数	120
回収数	98
回収率	81.7%

表 2 アンケート調査の内容

集合住宅居住者・アンケート内容	
調査対象世帯の属性	集合住宅居住者の生活活動・行為、ライフスタイルについて
・住居に関する事項 （居住年数、居住理由（住居・地域））	→1 日（平日・休日）の生活活動・行為 ・居住環境・生活環境（周辺環境）への評価
・近隣世帯同士での協同（働）について	・定住（継続）意識・定住（継続）理由・転居理由
・生活活動・コミュニティ活動の評価	・現在の生活への満足度
・自然・周辺環境に対する意識について	・伝統意識について
・遊牧生活・都市生活に対する意識について	

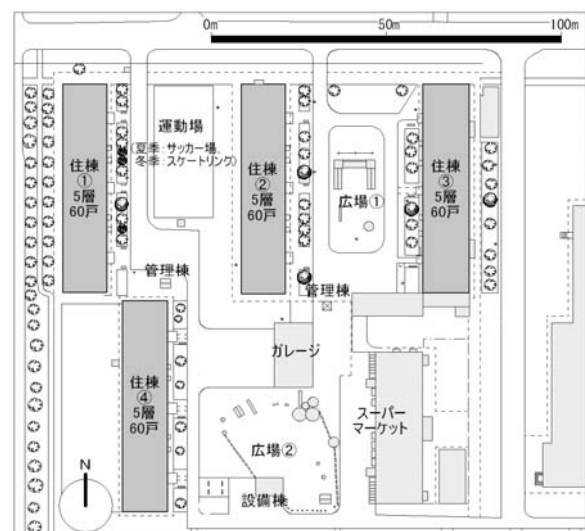


図 1 調査対象集合住宅地区

4. 調査対象世帯の属性及び近所付き合いの度合い

4.1 調査対象世帯の属性

家族構成に関しては、平均家族（世帯）人数^{注1）}は4.1人であり、世帯人数の3～5人の割合が全体の約80%を占め、核家族が多く居住している傾向が窺える。

年齢構成に関しては、平均年齢は40.3歳であり、全体の約75%が50歳未満となっていることから、居住者は比較的中年齢層の割合が高いと言えよう。

居住年数に関しては、5年以下の割合が53.8%と最も高く、居住年数が20年以下の世帯が殆どである。また、平均居住年数は7.7年であり、入居してから日が浅い短期居住世帯が多くを占めている。

4.2 近所付き合いの度合い（図2）

近所付き合いの度合いに関しては、「親しくお付き合いをしている世帯がある」「生活していくうえで協力し合っている世帯がある」と答えた近所付き合いの度合いが強い（以下、近所付き合い・強と表す）居住者が34.1%、「顔見知り程度の世帯はある」と答えた近所付き合いの度合いが可もなく不可もない（以下、近所付き合い・中と表す）居住者が33.0%、「ほとんど近隣の世帯を知らない」と答えた近所付き合いの度合いが低い（以下、近所付き合い・低と表す）居住者が29.5%となっている。

5. 集合住宅居住者の近所付き合いの度合いからみた生活・コミュニティ意識の状況

5.1 定住意識の有無及び定住・転居理由

1) 定住意識の有無（図3）

1・2と答えた居住者を定住意識のある居住者、4・5と答えた居住者を定住意識のない居住者とする、近所付き合い・強の居住者に関しては、定住意識のある居住者は65.5%、定住意識のない居住者は24.1%となっている。近所付き合い・中の居住者に関しては、定住意識のある居住者は39.3%、定住意識のない居住者は57.1%となっている。近所付き合い・弱の居住者に関しては、定住意識のある居住者は50.0%、定住意識のない居住者は46.1%となっている。このことから近所付き合い・強の居住者において他の居住者に比べ定住意識のある居住者の割合が高い傾向が窺える。

2) 定住理由（図4）

定住意識のある居住者の定住理由に関しては、総体的に「立地条件が良いから」「住居が気に入っているから」「周辺環境が良いから」の割合が高く、定住理由に関して生活・居住環境の良い点を捉えた積極的理由が挙げられている傾向がある。近所付き合い・弱の居住者においては「引越しが煩わしいから」の割合が他の居住者に比べ高い傾向があり、定住理由に関してデメリットを捉え

表3 調査対象世帯の属性

	全体		近所付き合い・強		近所付き合い・中		近所付き合い・弱	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年齢構成								
1. 19歳以下	2	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%
2. 20～24歳	7	7.1%	5	16.7%	2	6.9%	0	0.0%
3. 25～29歳	8	8.2%	1	3.3%	2	6.9%	3	11.5%
4. 30～34歳	18	18.4%	1	3.3%	10	34.5%	7	26.9%
5. 35～39歳	14	14.3%	3	10.0%	4	13.8%	3	11.5%
6. 40～44歳	14	14.3%	5	16.7%	3	10.3%	3	11.5%
7. 45～49歳	11	11.2%	6	20.0%	1	3.4%	3	11.5%
8. 50～54歳	12	12.2%	4	13.3%	4	13.8%	2	7.7%
9. 55～59歳	6	6.1%	3	10.0%	2	6.9%	1	3.8%
10. 60～64歳	2	2.0%	1	3.3%	0	0.0%	1	3.8%
11. 65歳以上	4	4.1%	1	3.3%	1	3.4%	2	7.7%
合計	98	100.0%	30	100.0%	29	100.0%	26	100.0%
家族構成								
1. 1人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2. 2人	9	9.5%	2	6.7%	2	7.1%	9	12.5%
3. 3人	19	20.0%	4	13.3%	7	25.0%	7	29.2%
4. 4人	39	41.1%	14	46.7%	11	39.3%	9	37.5%
5. 5人	19	20.0%	7	23.3%	7	25.0%	2	8.3%
6. 6人	4	4.2%	2	6.7%	1	3.8%	0	0.0%
7. 7人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8. 8人	3	3.2%	1	3.3%	0	0.0%	2	8.3%
9. 9人	2	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.2%
10. 10人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	95	100.0%	30	100.0%	28	100.0%	24	100.0%
居住年数								
1. 0～5年	50	53.8%	11	36.7%	18	62.1%	18	72.0%
2. 6～10年	14	15.1%	2	6.7%	5	17.2%	5	20.0%
3. 11～15年	14	15.1%	8	26.7%	5	17.2%	0	0.0%
4. 16～20年	12	12.9%	7	23.3%	0	0.0%	2	8.0%
5. 21～25年	2	2.2%	1	3.3%	1	3.4%	0	0.0%
6. 26～30年	1	1.1%	1	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
7. 31～35年	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8. 36～40年	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9. 40年以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	93	100.0%	30	100.0%	29	100.0%	25	100.0%
平均居住年数	7.7		11.0		6.3		4.5	

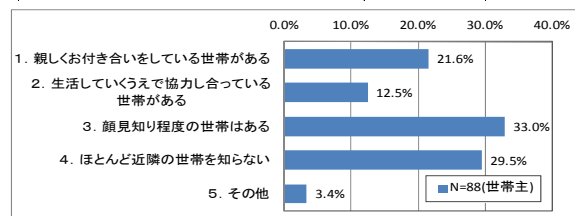


図2 近所付き合いの度合い

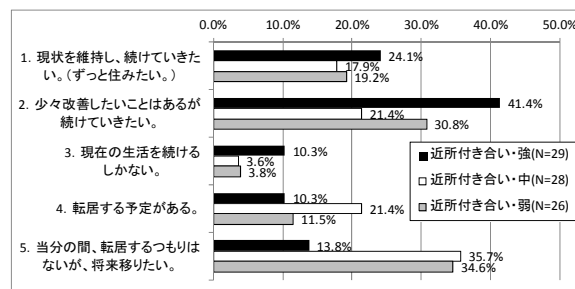


図3 定住意識の有無

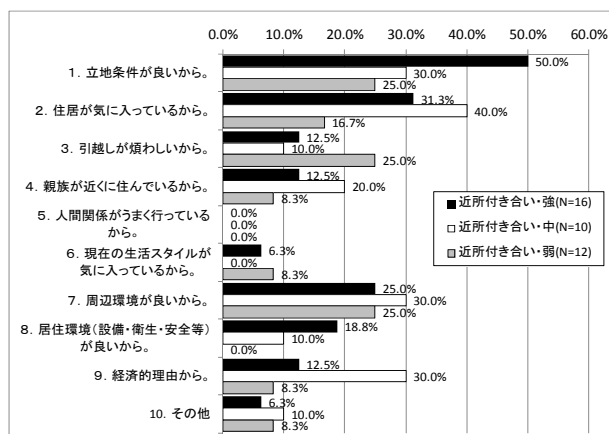


図4 定住理由（複数回答）

た消極的理由が挙げられている。

3) 転居理由（図5）

定住意識のない居住者の転居理由に関しては、近所付き合い・強の居住者では「仕事の関係」が50.0%で最も高い。近所付き合い・中の居住者では「居住環境

(設備・衛生・安全等)に不満」が50.0%で最も高い。
近所付き合い・弱の居住者では「家庭の事情」が40.0%で最も高く、各居住者で転居理由に差異がみられる。

6. 集合住宅居住者の近所付き合いの度合いからみた 協同・協働活動の情况

6.1 近所付き合いの情况

1) 近所付き合いの人数 (図6)

近所付き合いの人数に関しては、近所付き合い・強の居住者では「5～6人」「11人以上」が24.1%で最も高い。近所付き合い・中の居住者では「1～2人」が34.5%で最も高い。近所付き合い・弱の居住者では「誰もいない」「3～4人」が24.1%で最も高い。近所付き合いの度合いが強いほど、近所付き合いの人数が多い情况がわかる。

2) 日頃よく付き合っている人について (図7)

日頃よく付き合っている人に関しては、近所付き合い・強の居住者では「同じ集合住宅(住棟)の人」「職場(学校)、仕事に関係のある人」が33.3%で最も高い。近所付き合い・中及び近所付き合い・弱の居住者では「職場(学校)、仕事に関係のある人」が各々35.7%、64.0%で最も高い。また、近所付き合い・弱の居住者においては、「同じ集合住宅(住棟)の人」「同じ集合住宅地区内の人」「地域の人」と答えた居住者が皆無であり、近隣世帯とのコミュニティが希薄な傾向が窺える。

6.2 協同管理運営活動への参加状況及び評価

1) 協同管理運営活動への参加状況 (図8)

協同管理運営活動(清掃等)の参加状況に関しては、近所付き合いの度合いに関わらず参加層^{注2)}の割合が高い(近所付き合い・強:82.1%、近所付き合い・中:70.4%、近所付き合い・弱:53.8%)。また、近所付き合いの度合いが強いほど、参加層の割合が高い傾向がある。

2) 協同管理運営活動への評価 (図9)

協同管理運営活動(清掃等)への評価に関しては、近所付き合いの度合いに関わらず積極派^{注3)}の割合が高い(近所付き合い・強:81.5%、近所付き合い・中:57.7%、近所付き合い・弱:65.4%)。近所付き合い・強の居住者は積極派の割合は8割を超えており、他の居住者に比べ協同管理運営活動への評価が高い傾向がある。

6.3 集会・イベント活動への参加状況及び評価

1) 集会・イベント活動への参加状況 (図10)

近隣地域での集会・イベント活動(ナーダム^{注4)}、お祭り等)への参加状況に関しては、近所付き合い・強及び近所付き合い・中の居住者では参加層の割合が高く、各々62.1%、28.6%となっている。近所付き合い・弱の居住者に関しては参加層の割合が26.9%、不参加層

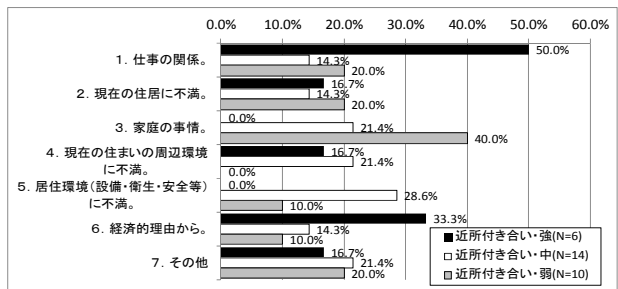


図5 転居理由(複数回答)

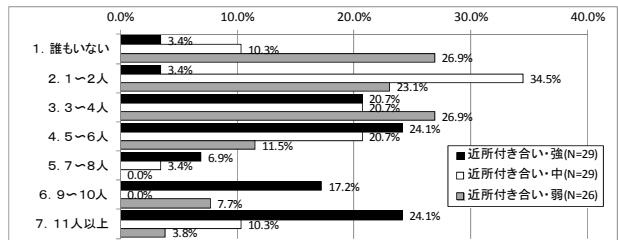


図6 近所付き合いの人数

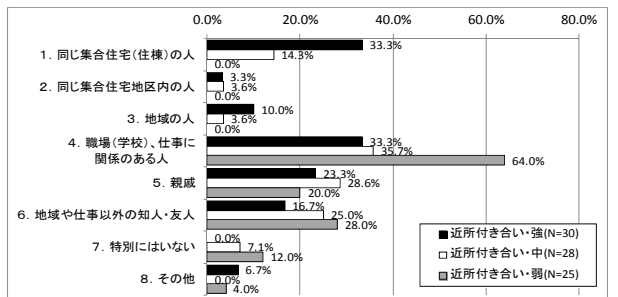


図7 日頃よく付き合っている人

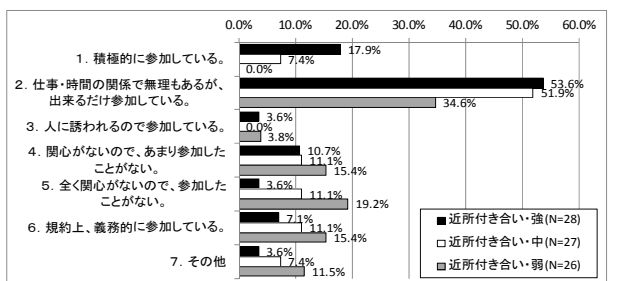


図8 協同管理運営活動への参加状況

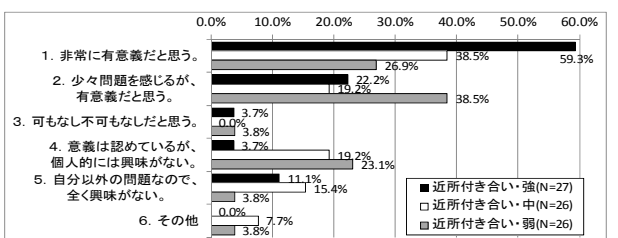


図9 協同管理運営活動への評価

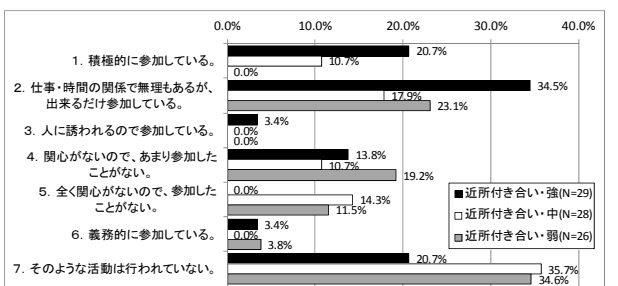


図10 集会・イベント活動への参加状況

の割合が 30.7%であり、不参加層の割合が高くなっている。このことから、近所付き合いの度合いが強いほど、参加層の割合が高い傾向があり、特に近所付き合い・強の居住者の参加層の割合は他の居住者の 2 倍以上となっている。また、「そのような活動は行われていない」と答えた居住者の割合は総体的に高いが、近所付き合い・中及び近所付き合い・弱の居住者は近所付き合い・強の居住者に比べて、近隣地域での集会やイベント活動の開催状況に関する認知度が低い傾向が窺える。

2) 集会・イベント活動への評価 (図 11)

近隣地域での集会・イベント活動（ナードム、お祭り等）への評価に関しては、近所付き合い・強の居住者では積極派が 51.8%、消極派が 18.5%となっており、積極派の割合が高い。近所付き合い・中及び近所付き合い・弱の居住者に関しては消極派の割合が高くなっており、各々53.9%、39.1%となっている。

6.4 生活・コミュニティ活動への満足度 (図 12)

生活・コミュニティ活動への満足度^{注 5)} に関しては、近所付き合い・強及び近所付き合い・中の居住者では満足層の割合が高くなっており、各々51.8%、34.6%となっている。近所付き合い・弱の居住者に関しては、満足層 23.8%、不満足層 71.4%であり、不満足層の割合が高い。近所付き合いの度合いが強いほど、満足層の割合が高い傾向があり、近隣のコミュニティの状況と生活・コミュニティ活動への満足度は相関性があると言えよう。

7. まとめ

本稿ではモンゴル・ウランバートル都市部の集合住宅居住者に対するアンケート・ヒアリング調査を基に、都市部集合住宅居住者の近所付き合いの状況に着目し、近隣コミュニティの状況が生活意識や生活・コミュニティ活動に与える影響について考察した。本稿より得られた知見をまとめると以下のようである。

- 1) 集合住宅居住者の近所付き合いの状況を概観すると、近所付き合いの度合いが強い世帯がいる居住者ほど、近所付き合いの人数が多く、近隣（同じ集合住宅（住棟）の人、同じ集合住宅地区内の人、地域の人）の居住者との関係性が強い傾向が明らかになった。また、集合住宅居住者は総体的に日頃よく付き合っている人が「職場の人」である割合が高い^{注 6)} が、この傾向は近所付き合いの度合いが弱いほど顕著にみられる。
- 2) 近所付き合いの度合いが強い居住者ほど、定住意識が高く、集合住宅地区内及び近隣地域での協同・協働活動への参加度及び評価も高い傾向がある。加えて、生活・コミュニティ活動への満足度も総体的に高い。この

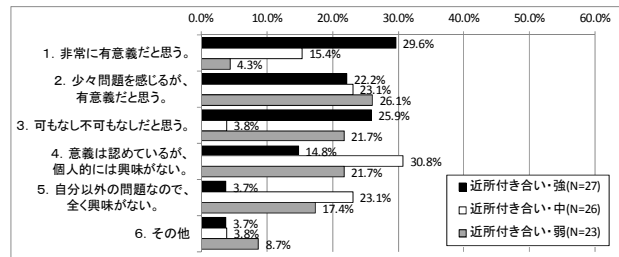


図 11 集会・イベント活動への評価

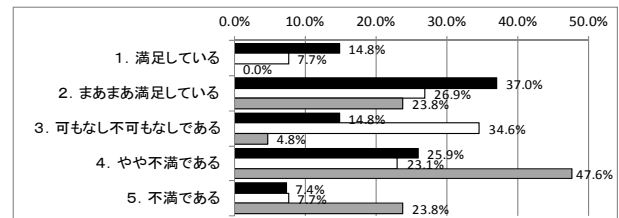


図 12 生活・コミュニティ活動への満足度

ことから、良好な近隣コミュニティの創出は、集合住宅地区内の協同・協働活動の活性化を促すと共に、良好な生活・居住環境の創生に寄与すると考えられる。

注釈

- 注 1) 統計 (MONGOLIAN STATISTICAL YEARBOOK 2007) によると、調査時点 (2007 年現在) でのモンゴルの平均家族 (世帯) 人数は 4.1 人となっており、調査対象集合住宅における平均家族 (世帯) 人数と同様である。
- 注 2) 「1. 積極的に参加している」「2. 仕事・時間の関係で無理もあるが、出来るだけ参加している」「3. 人に誘われるので参加している」「6. 規約上、義務的に参加している」と答えた居住者を参加層、「4. 関心がないので、あまり参加したことがない」「5. 全く関心がないので、参加したことがない」と答えた居住者を不参加層として分析している。
- 注 3) 「1. 非常に有意義だと思う」「2. 少々問題を感じるが、有意義だと思う」と答えた居住者を積極派、「4. 意義は認めているが、個人的には興味がない」「5. 自分以外の問題なので、全く興味がない」と答えた居住者を消極派として分析している。
- 注 4) ナードムとは祭典一般を意味し、モンゴルの伝統的な祭典である。その中心行事は子ども競馬、モンゴル相撲、弓射である。国のナードムは毎年 7 月 11 日 (モンゴルの革命記念日) にウランバートルで行われるが、アイマク (県) やソム (郡) 単位でも行われている。
- 注 5) 「1. 満足している」「2. まあまあ満足している」と答えた居住者を満足層、「4. やや不満である」「5. 不満である」と答えた居住者を不満足層として分析している。
- 注 6) 集合住宅社会主義時代の居住者にとっては、職場単位でのコミュニティが中心で活性していた状況があり、モンゴルではこれが未だに名残を残している状況がある。

本論文に関連する既発表論文

- 1) Mitsuhiro Hasegawa, Umekazu Kawagishi, et al. (2004.5) Study on the Living Space Planning in Ulaanbaatar, Mongolia - Common Spaces in Apartment Complexes -. Journal of Asian Architecture and Building Engineering, AIJ, AIK, ASC, vol.3 no.1, 133-140
- 2) Umekazu Kawagishi, et al. (2005.5) Study on the Living Space Planning in Ulaanbaatar, Mongolia Part 2 - Residential and Living Environments in Apartment Complexes -. Journal of Asian Architecture and Building Engineering, AIJ, AIK, ASC, vol.4 no.1, 151-159
- 3) Umekazu Kawagishi, Hirofumi Sugimoto, et al. (2005.11) Study on the Living Space Planning in Ulaanbaatar, Mongolia Part 3 - Perceptions of Apartment Residents -. Journal of Asian Architecture and Building Engineering, AIJ, AIK, ASC, vol.4 no.2, 415-422
- 4) Hirofumi Sugimoto, Umekazu Kawagishi, et al. (2007.11) Living Environment of Nomads Residing on the Outskirts of Ulaanbaatar, Mongolia -Dispositional Characteristics from the Perspective of a Comparison of Nomads and People Living in Ger Fixed Residences in the City-. Journal of Asian Architecture and Building Engineering, AIJ, AIK, ASC, vol.6 no.2, 283-290
- 5) 杉本弘文, 川岸梅和, 他: 遊牧民と集合住宅居住者の比較からみた生活環境に関する生活・コミュニティ意識の傾向的特性について -モンゴル・ウランバートル近郊に暮らす遊牧民の生活環境に関する研究-, 日本建築学会技術報告集, 第 14 巻, 第 27 号, pp.213~218, 2008 年 6 月
- 6) 杉本弘文, 川岸梅和, 他: モンゴル・ウランバートル近郊に暮らす遊牧民の生活環境に関する研究 -遊牧民と集合住宅居住者の生活・コミュニティ意識に関する比較・検討-, 2007 年度 日本建築学会関東支部 審査付き研究報告集 3, pp.53~56, 2008 年 9 月
- 7) Umekazu Kawagishi, Hirofumi Sugimoto, et al. (2010.5) Living Environment of Nomads Residing on the Outskirts of Ulaanbaatar, Mongolia Part 2 - Lifestyle and Living Environment from the Perspective of Perceptions and Activities -. Journal of Asian Architecture and Building Engineering, AIJ, AIK, ASC, Vol.9 No.1, 139-146
- 8) Umekazu Kawagishi, Hirofumi Sugimoto : Study on the Creation of Low Environmental Load Lifestyle and Living Environments Through Communal Living, UIA2011 TOKYO Academic Program, Research Paper and Design Works, Poster Session, No.30338, 2011 年 9 月
- 9) 川岸梅和, 杉本弘文: 集住における都市部での生活・居住環境に関する研究 -モンゴルの遊牧民と集合住宅居住者の生活意識・活動の比較からみた考察-, 日本建築学会計画系論文集 第 76 巻 第 668 号, pp.1849~1858, 2011 年 10 月

参考文献

既報と同様である。